平成30年度
No.12

大塚区だより

組長解散会

2月23日（土）19時より大塚児童館にて、組長解散会が開催されました。 区長から1年間のご協力に対する組長への労いの挨拶のあと、ささやかな宴が設けられ、1年間の活動などの話で有意義な一時を共有することができました。

組長の皆様、各役員の皆様、一年間ご協力ご活躍いただきまして、 大変ありがとうございました。

平成30年度 第2回避難所運営会議

平成31年2月12日（火）に中津第二小学校において、第2回避難所運営会議が開催されました。防災設備、備蓄品の確認が行われ、指定緊急避難場所および指定避難場所が報告されました。また、2019年度の総会および防災訓練等について動議が出され、承認されました。

平成30年度 大塚区通常総会 開催のお知らせ

日時　3月10日（日） 13時より
場所　大塚児童館
※欠席の方は、「委任状」を各組長に提出お願い致します(3月8日締切です)。

3月の予定

3月11日（月）：愛川中原中学校卒業証書授与式
3月16日（土）：新旧役員会事務引き継ぎ
3月20日（水）：中津第小学校卒業証書授与式

みんなに優しく、心温かい大塚区を

大塚区長　齋藤増雄

季節は巡り、もう総会に向けた準備へ

このところすっかり春めいた天候になっている。日中の気温の上昇で梅が見ごろとなった。芽吹きの雨も一定間隔で降る気配となり、落葉樹もその時を待っているようだ。農作業する人は、ジャガイモの植え付けなどが話題となる。そうした時期は、多くの団体で総会に向けた準備に入る時期でもある。大塚区の平成30年度事業も区民の皆様のご協力により、多くの事業が出来ました。改めて皆様に厚くお礼申し上げます。今総会の準備に入っています。

驚く（あきれる）ニュース

さて、驚くというか、またかというか、とんでもないニュースがあまりにも多い。子供への虐待死事件や保育士たちによる園児へのいじめ、幅よせなどの危険運転の横行、バイトテロと呼ばれたネット動画、後を絶たないバカな国会議員にニュースなどなど、それにしても　会津のように『ならぬものはならぬ』といったきちんとした日本はどこへ行ったのだろうか。

こんにちは、今日は良い天気で、お互い様の輪を広く

地域には隣近所がある。また多くの知り合いや顔なじみの人も多い。そこでは特別で無い限り、会話がある。「今日はいやに寒いね」「雨が続いていやだね」「本当に暑いね」・・・そんな天候のことから始まり、井戸端会議みたいに発展することもある。地域でそんな会話ができることが、実は大変大切である。災害時には特に顔が見える関係が重要になる。

人は特別な状況ではなくても自然に情報を入手し、ときには重要な情報もキャッチしながら生活している。それを少し形作って、地域のみんなが安心して安全に暮らし、交流が進むために自治会があるのだと思う。

あいさつが一層弾む大塚区になることを願って・・・・・・・

コラム1：あなたは犬派？猫派？

2017-18年にネコの飼育頭数が、犬の飼育頭数を超えたのをご存じだろうか。犬892（千頭）に対して猫9526（千頭）になった。よく、動物を飼うとしたら犬それとも猫どちらを選ぶなどと質問があり、占いなどもあるようでその信憑性は分からないが、犬と猫では生態や性格など大きく違うところは多い。猫が家畜化されたのは古代エジプト時代、猫は崇拝され大事にされていた。どちらかというと暖かい地域で飼育さえていたものが多く、社会性も単独行動あるいは家族単位の形態をとる。一方犬の先祖はオオカミであり、どちらかというと寒い地域に生息していた。社会性があり、集団行動をとるのが特徴である。犬は喜んで雪の庭で駆け回り、猫はこたつで丸くなるという歌があるが、これはまさに両者の気候への順応性を表したものである。また、犬は飼い主をボスと見なすが、猫は飼い主をボスとは見なさず、ただの餌をくれるヒトという認識の違いがある。したがって生態としても、犬は人に気に入られたくて従順な行動をとるが、猫は人の気持ちは関係なく自分の気持ち中心に人に対する行動をする違いがある。人懐っこくかわいいことが犬派の主張であるのに対し、世話が楽で手がかからないというのが猫派の主張である。どちらが好みかで選択していただければ良いと思う。犬派、猫派どちらの方にも守っていただきたいのが、動物を飼うときのルールでこれは共通している。飼育動物は、飼い主が100％責任をもっていただきたい。餌や飼育環境を整え、法律で決められたワクチンはもとより、獣医師が推奨するその他のワクチンなども必ず接種する。また、必要な薬（たとえば、犬のフィラリア薬）なども定期的に飲ませるのも飼い主の役目である。人の健康診断が必要なように犬猫も定期的な健康診断を受けてもらいたい。犬猫を飼育するのには、相当のお金がかかるのである。よく猫を家から自由に出入りできるように飼われている方がいるが、きちんとした避妊あるいは去勢を施していないと不必要な繁殖につながったり、伝染病（猫白血病や伝染性腹膜炎は死に直結する）に感染したり、あるいはその病気を広げる感染源になってしまうことを知ってほしい。日本には狂犬病はないが、いつ外国から入ってくるか分からない。狂犬病（狂犬病は犬だけでなく、イヌ科の動物（（狸、ハクビシン、アライグマ））にも感染する）の犬に咬まれて、発病したらヒトは絶対に助からない100％死んでしまう感染症である。犬派、猫派どちらも動物を飼うことは、自分の生活の質を向上させる良い方法ではあるが、動物の生活の質も考え、幸せな一生を見届けてあげていただきたい。

コラム2：からだのマイナンバー

マイナンバーは個人を識別するために与えられた数値で、個々で違います。これと同じものが体の細胞にあるのをご存知でしょうか。組織適合遺伝子複合体分子（MHC分子）と呼ばれるもので、個々の細胞の表面に存在します。これに似たもっと単純なものが血液型です。ABO型赤血球の分類で、A型B型の分子を持っているかで分けられます。A型はA分子、B型はB分子、AB型はAB分子両方、O型はAB分子ともに持っていないので自分の持っていない分子が入ってくると拒絶反応を起こします（輸血できないこと）。したがって、O型の人はみんなに輸血できますが、自身はO型の人からしか血液を貰えません。これをもっと複雑にしたものがMHC分子（人ではHLA分子と呼びます）です。人ではこの分子を3-6個細胞の表面に持っています。この1分子は両親のそれぞれの遺伝子からつくられるため親と一致することはありません。兄弟でも一致するのは1/4の確率です。これが複数分子の組み合わさり、さらに複雑にする仕組みが存在して、個人の細胞のマイナンバーが決定されます。したがって、兄弟間でこのマイナンバーが一致することもありません（一卵性双生児は一致します）。他の個体と比べて兄弟では近いものになる確率はふえます。この細胞のマイナンバーが完全に一致すれば、安全な移植が可能ということです。違うと拒絶反応が起こり、免疫の力でそれを排除してしまいます。したがって、移植の場合はこのマイナンバーの一致するものを捜すかあるいは最も近いものを選ぶ必要があります。このような理由から、再生医療には自分の細胞からiPS細胞を作れば拒絶反応を回避できるので治療が容易になりますが、個人のオーダーメイドでこのiPS細胞を作るのには莫大なお金がかかるため、最も多くみられるマイナンバーの数値を洗い出してそのiPSを作ってプールする細胞バンク機構が考え出され、それが国家プロジェクトとしてやっと動き出したところです。取りあえず、このからだのマイナンバーが違っても、免疫反応が起きにくい角膜などの移植から始めています。将来的には、iPSではなくSTAP細胞のように人為的な操作を加えていない自分の細胞から新品の組織を作らせ、部品交換する時代がやってくるかもしれません。

編集後記

大塚区だより、本号が今年度の最終になります。今年度は年間12回発行、A4版で両面フルカラー印刷での発行を目標にして、どうにか達成することができました。とても安価で迅速、きれいな印刷を可能にしたネット印刷サービスを利用できたのも広報活動の助けになりました。自治会会員の皆様には一年間拙い文章をご一読いただきありがとうございました。